

令和4年度出水期は全国のべ162ダムで事前放流を実施！

～洪水に備え、既存ダムを活用し容量を確保～

令和4年度の出水期は、台風第14号で過去最多となる129ダムをはじめ、全国ののべ162ダムでの事前放流の実施により、約5.5億m³の容量を確保し台風等の洪水に備えました。

- 令和2年度以降、全国のダムで事前放流の実施体制を整えて洪水に備えています。
- 今般、令和4年度の出水期における事前放流の実施状況をまとめましたので、お知らせします。

<令和4年度出水期における事前放流の実施状況（概要）>

	令和4年度	(参考) 令和3年度
治水等多目的ダム	76ダム	66ダム
利水ダム	86ダム	56ダム
合計	162ダム	122ダム

【別紙資料】・令和4年度出水期における事前放流の実施状況（総括）

・事前放流の実施状況と利水ダム等による効果（球磨川水系、大淀川水系、小瀬川水系）

（参考）関連資料及び用語解説は、下記のホームページをご覧ください。

○既存ダムの洪水調節機能強化に向けた検討会議

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kisondam_kouzuichousetsu/

○既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針

https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kisondam_kouzuichousetsu/pdf/kihon_hoshin.pdf

【問い合わせ先】

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 流水管理室

企画専門官 田中里佳（内線：35472）

水利・流水企画係長 本田真章（内線：35483）

代表：03(5253)8111 直通：03(5253)8449 FAX：03(5253)1603

令和4年度出水期における事前放流の実施状況(総括)

- 令和4年度の出水期においては、全国ののべ162ダムで事前放流を実施したことにより約5.5億m³の容量を確保し、洪水に備えた。(令和4年6月26日～令和4年9月22日)
- そのうち、利水ダムではのべ86ダムで事前放流を実施したことにより約2.9億m³の容量を確保。

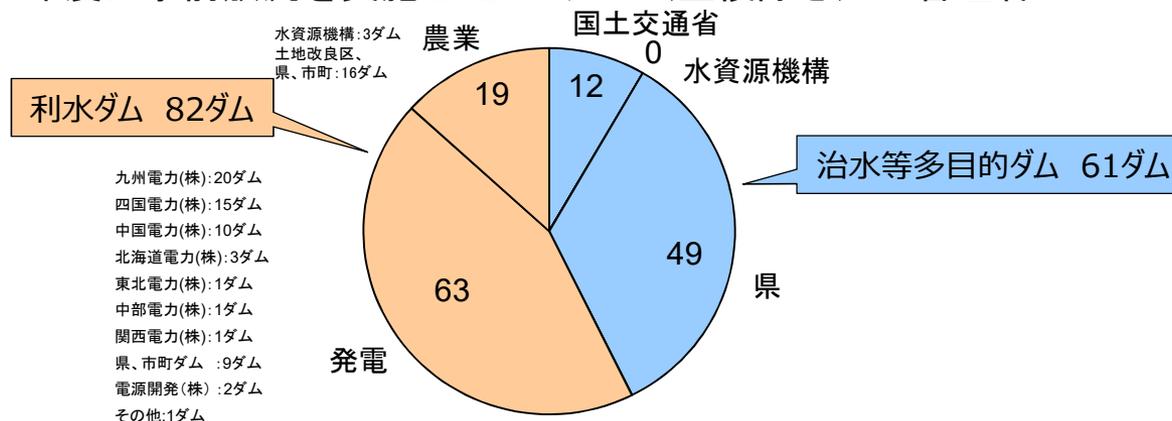
<令和4年度に事前放流を実施したダム数と確保容量の内訳>

11月30日時点

		令和4年度の主な降雨						合計 (ダム数の括弧書きは重複除きの数)
		7月14日から の大雨	8月3日から の大雨	台風第11号 (9月5日～)	台風第14号 (9月18日～)	台風第15号 (9月23日～)	その他	
治水等多目的ダム	ダム数	3	3	12	52	1	5	76 (61)
	確保容量(万m ³)	168	108	6,783	18,026	451	908	26,444【約2.6億m ³ 】
利水ダム	ダム数	2	4	1	77	0	2	86 (82)
	確保容量(万m ³)	58	3,721	407	24,648	0	54	28,888【約2.9億m ³ 】
合計	ダム数	5	7	13	129	1	7	162 (143)
	確保容量(万m ³)	226	3,829	7,190	42,674	451	962	55,332【約5.5億m ³ *】

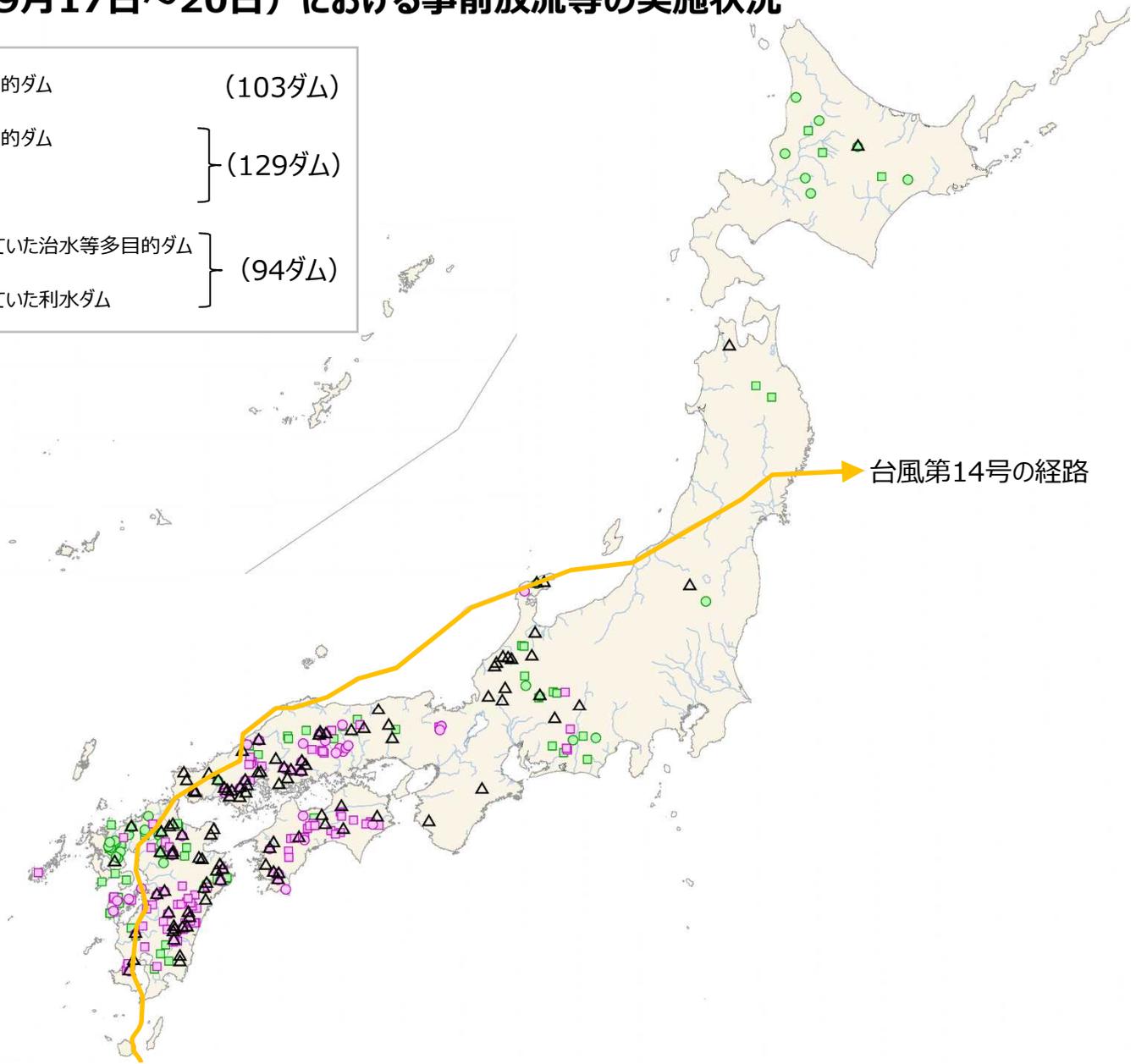
<令和4年度に事前放流を実施した143ダム(重複除き)の管理者>

※上記ののべ162ダム、約5.5億m³に加え、全国のべ194ダムですでに事前放流の容量を確保(約9.7億m³)



台風第14号(令和4年9月17日~20日)における事前放流等の実施状況

- △ 洪水調節を実施した治水等多目的ダム (103ダム)
 - 事前放流を実施した治水等多目的ダム
 - 事前放流を実施した利水ダム
 - すでに事前放流の容量を確保していた治水等多目的ダム
 - すでに事前放流の容量を確保していた利水ダム
- } (129ダム)
- } (94ダム)



→ 台風第14号の経路

○湯山雨量観測所において累加雨量949mmとなり、令和2年7月豪雨(517mm)を上回る降雨量を記録。

○市房ダムでは、**通常の洪水調節容量1,830万m³に加え、事前放流により約470万m³の容量を追加確保**したため、大雨により緊急放流※に至ったものの、人吉地点のピーク水位を上昇させなかった。

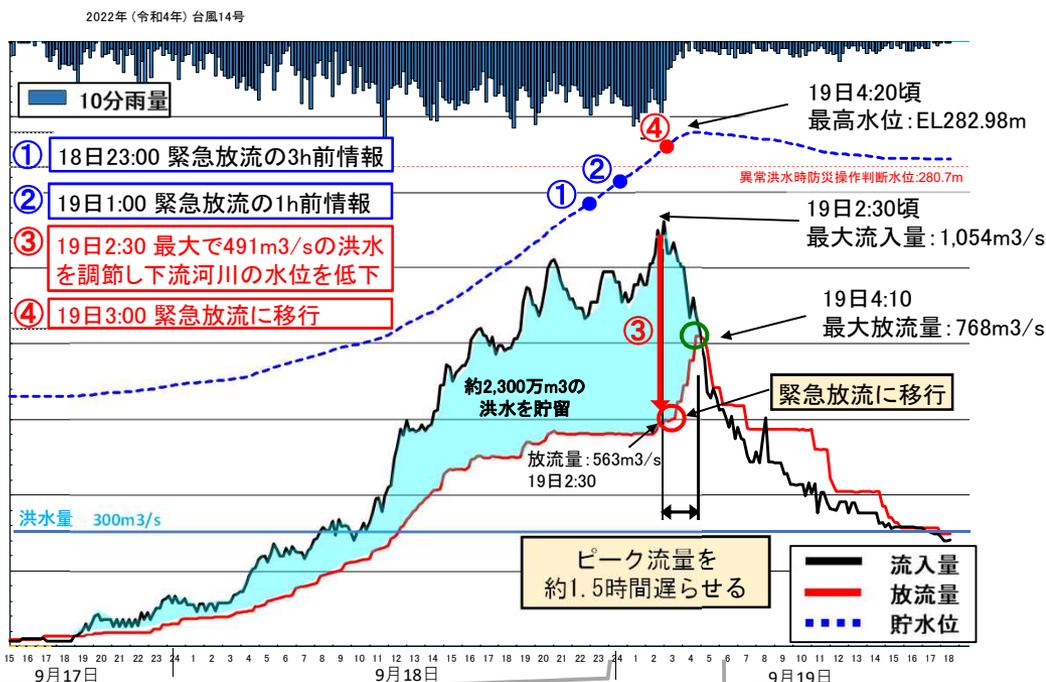
○ダムの洪水調節により、ダムからのピーク流量の発生時刻を約1.5時間遅らせ、最大放流量を286m³/s低減することで、下流の多良木水位観測所で約90cm、人吉水位観測所で約20cmの水位低減効果があったと推定。

※ダムが満水に近づいたときに、放流量を流入量に近づけていき流入量と同程度の放流を行う操作のこと。

市房ダム洪水調節概要図



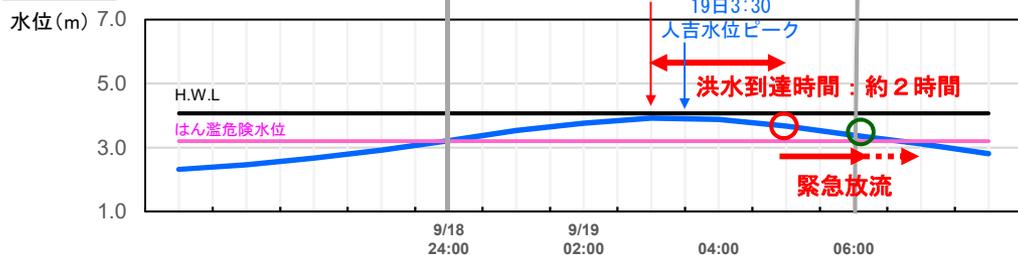
市房ダム洪水調節グラフ(雨量、貯水位、流入量、放流量)



最高貯水位頃の湖面状況9月19日3:40頃(EL.282.84)



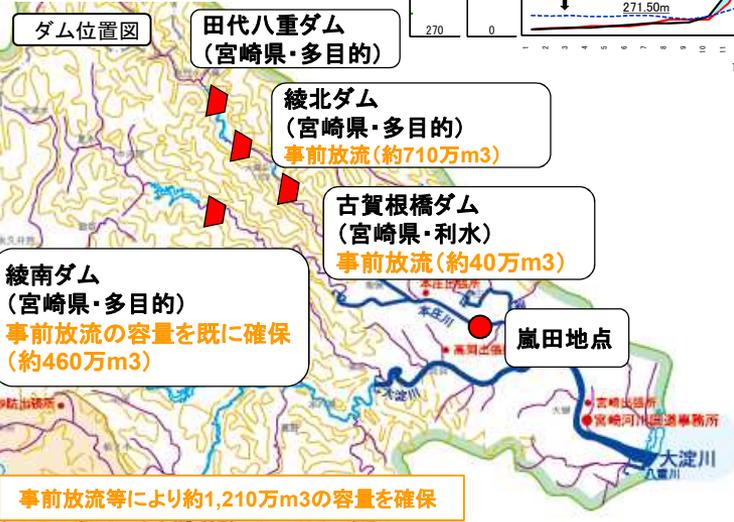
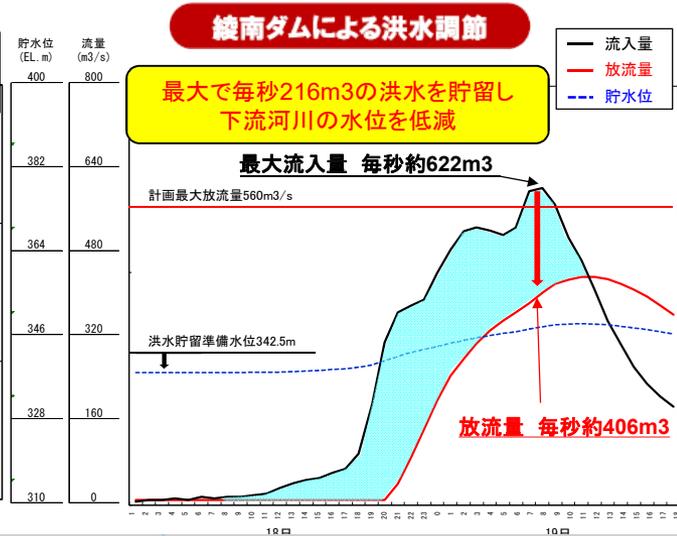
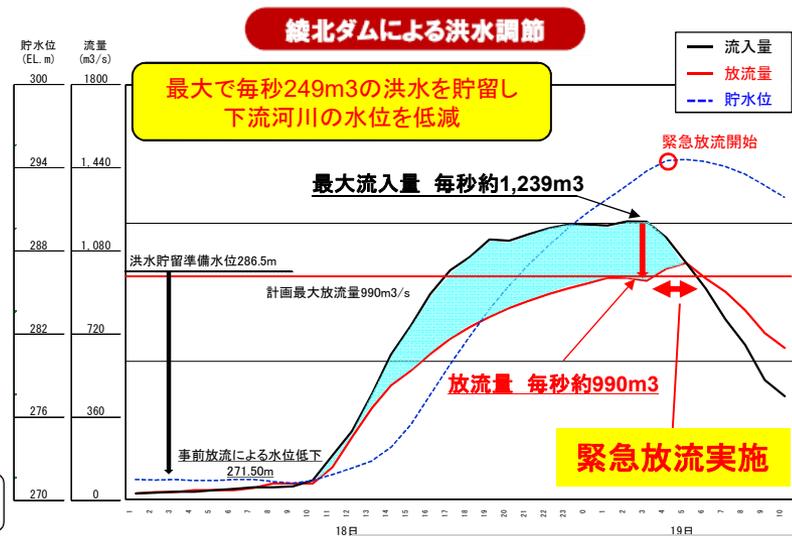
人吉水位



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

- 綾北ダム雨量観測所において累加雨量912mmとなり、平成17年台風第14号(1,121mm)に匹敵する降雨を観測。
- 本庄川上流4ダムでは、通常の洪水調節容量3,340万m³に加え、事前放流等により約1,210万m³の容量を追加確保し、洪水を貯留。
- 綾北ダムは緊急放流※に至ったものの、事前放流の実施により、最大放流量を低減し、緊急放流への移行を遅らせたと推定。
- 綾南ダムの洪水調節等により、嵐田地点で約30cmの水位を低減したと推定。

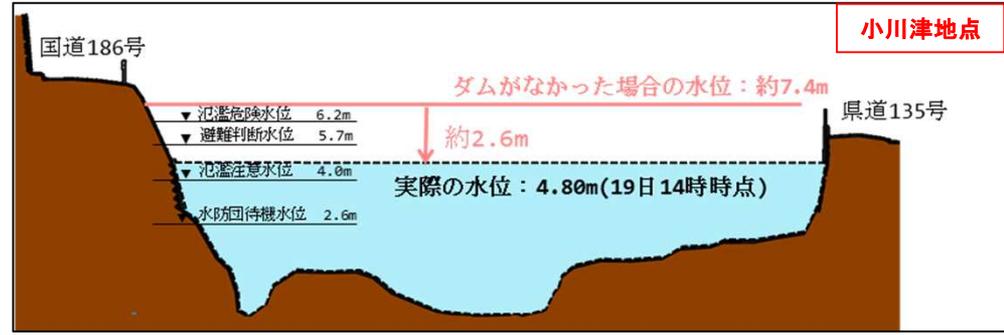
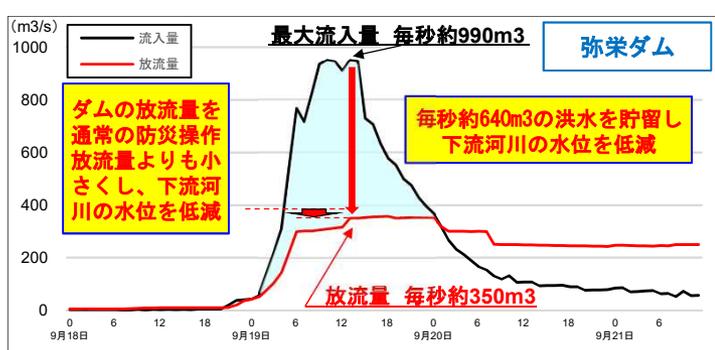
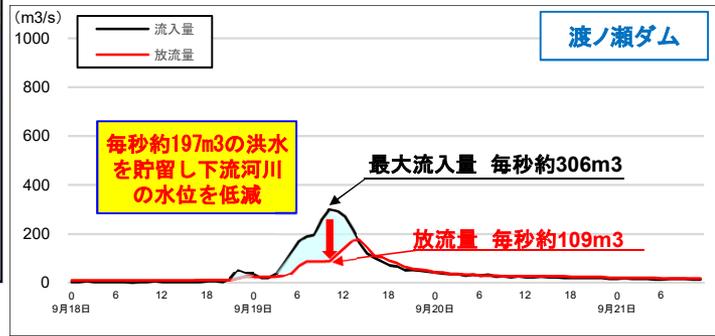
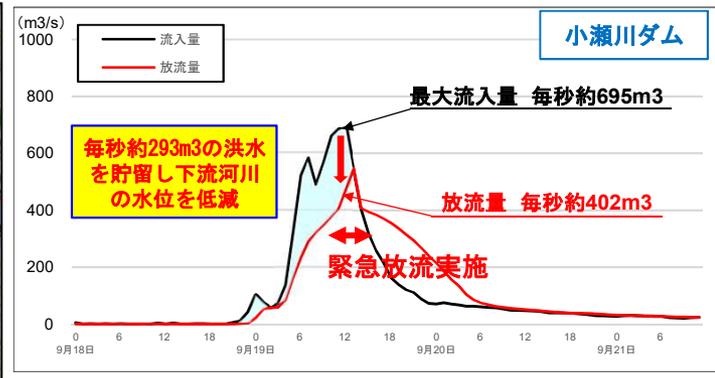
※ダムが満水に近づいたときに、放流量を流入量に近づけていき流入量と同程度の放流を行う操作のこと。



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

- 小瀬川流域では、流域平均累加雨量は377mmとなり、平成30年7月豪雨(369mm)に匹敵する降雨を観測。
- 小瀬川上流3ダムでは、通常の洪水調節容量6,640万m³に加え、事前放流により約650万m³の容量を追加確保し、洪水を貯留。
- 小瀬川ダムは緊急放流※に至ったものの、事前放流の実施により、最大放流量を低減したと推定。
- 3ダムの洪水調節等により小川津地点において、水位を約2.6m低減し浸水被害を防止したと推定。

※ダムが満水に近づいたときに、放流量を流入量に近づけていき流入量と同程度の放流を行う操作のこと。



※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。